

創薬が拓く日本の未来

日本製薬工業協会会長
武田薬品工業ジャパンファーマービジネスユニットプレジデント

宮柱明日香
みやばしら あすか



日本の未来を支える 「創薬・先端医療」

革新的医薬品の創出を通じて患者さんに希望を届けること、そして、そのイノベーションを通じて日本の未来に貢献すること——創薬を基盤とする製薬産業は、その両立を実現できる産業の一つである。

創薬・先端医療は、人々の健康を支え、健康寿命の延伸や社会参加の促進につながるだけでなく、新たな技術、投資、人財を呼び込み、日本の成長力や競争力を支える裾野の広い重要な産業基盤でもある。私はこの点を、日本成長戦略会議の創薬・先端医療ワーキンググループにおいて繰り返し訴求してきた。

海外では、創薬・先端医療分野を国家戦略と位置付ける動きが加速している。近隣の中国、韓国を含む各国が研究開発や製造基盤へ

の投資を拡大し、人財や技術の獲得競争を進める中、創薬をめぐる国際競争はこれまでになく激しさを増している。

こうした環境の変化を踏まえれば、「創薬」は医療政策の枠を超え、国民の命と健康を守るとともに、労働生産性の向上を通じて日本の成長力や国際競争力、さらには経済安全保障を支える戦略分野と捉える必要がある。

今回の日本成長戦略において、創薬・先端医療が日本の成長を牽引する戦略分野として位置付けられ、国と製薬産業が共通の将来像のもと、その実現に向けた取り組みを本格的に進める方向性が示されたことは、極めて重要な一歩といえよう。

世界で激化する創薬競争

前述の通り、今、世界では、創薬を国家成長戦略の柱として位置付ける動きが急速に広

がっている。研究開発力の強化に加え、製造基盤の整備、人財育成、スタートアップ支援、データやAIの活用など、競争力の源泉は創薬エコシステム全体へと広がっている。

このような時代において、革新的医薬品を生み出す力だけでなく、それを迅速に実用化し、安定的に患者さんへ届ける力を備えた国が、世界中から投資と人財を引きつけている。日本において、患者さんに新たな治療の選択肢を継続的に届けるには、国内の創薬力を維持・強化するだけでは足りず、世界から選ばれる環境を構築していかなければならない。日本成長戦略会議における議論を通じて、海外市場に比肩し得る特許品市場の成長や、グローバル臨床開発を主導できる治験競争力の強化といった打ち手がロードマップに明記されたことは、官民共創による大きな成果であると受け止めている。

わが国が、世界に誇る基礎研究力、高度な医療提供体制、そして質の高いものづくりの力を有していることに疑いはない。アカデミア、スタートアップ、製薬企業、行政、投資家が連携し、これらの強みを有機的に結び付けることで、日本発のイノベーション創出力はさらに高まるはずである。

日本の強みを社会実装につなげるためには、創薬・先端医療分野への投資が必要となる。それは患者さんの未来を切り拓くと同時に、新たな成長機会を創出し、経済安全保障の確保や国際競争力の強化にも寄与する取り組みなのである。

創薬を支える三つの基盤

日本を世界から選ばれ続ける創薬の地としていくためには、創薬力、製造基盤、人財基盤の三つを一体的に強化する必要がある。

第1に、創薬力の強化である。日本には優れた基礎研究の成果が数多く存在する。しかし、それらを実際の医薬品として患者さんに届けるためには、基礎研究を創薬研究へと発展させ、さらに事業化へつなぐ仕組みが不可欠となる。そのためには、産学官の連携強化に加え、リスクマネーの供給拡大と、挑戦を後押しする人財の育成が欠かせない。アカデミアやスタートアップの優れた研究成果と、製薬企業が有する創薬ノウハウやグローバル開発力を結びつけることで、日本発の革新的医薬品を生み出す可能性は大きく広がっていくであろう。

第2に、製造基盤の強化である。バイオ医薬品や細胞・遺伝子治療、再生医療等製品など、新たなモダリティが広がる中、研究開発と製造との一体性は、ますます高まっている。国内に強固な製造基盤を確保することは、産業競争力の強化にとどまらず、有事における医薬品の安定供給を支えるという、経済安全保障上の観点からも極めて重要といえよう。

第3に、人財の充実である。創薬、臨床開発、薬事、製造、品質に加え、データサイエンスやAIといった新たな技術領域の重要性が高まっている。これに伴い、創薬を支える人財に求められる専門性は一層高度化・多様化している。これからの創薬には、分野を超えて知を結び付け、新しい技術を社会実装へとつなげる人財が欠かせない。国内外の優れた人財が集い、挑戦し、活躍できる環境を整えることが、日本の競争力向上の鍵となる。

官民共創で実行のステージへ

日本成長戦略は、ゴールではなくスタートラインと捉えている。創薬・先端医療を日本の成長戦略の中核に据えるという方向性は示されたが、今後真に問われるのは、その実現に向けた具体策と着実な実行にほかならない。

世界では今、イノベーションを支える人財、技術、資金が、より大きな可能性を求めて国境を越えて動いている。創薬をめぐる競争とは、新たな医薬品を生み出す競争であると同時に、世界中の人財、技術、資金を引きつけ、新たな価値を生み出す競争でもある。だからこそ、日本市場が持続的な成長を実現し、産学官がそれぞれの強みを持ち寄りながら「共創」を推進することには大きな意義がある。成長する市場には優れた人財と投資が集まり、新たな挑戦が生まれていく。そして、その挑戦の積み重ねが革新的な医薬品や技術の創出につながり、患者さんのもとへ届いていく。医薬品市場の成長とは、単に産業規模の拡大を意味するのではない。患者さんが新たな治療にアクセスする機会を広げるとともに、日本に次なるイノベーションを呼び込み、ひいては社会全体の活力を高めることにほかならない。

世界に誇る基礎研究力、高度な医療提供体制、そして卓越したものづくりの力を有し、社会課題の解決に向けて産学官が力を集結できる日本には、そのような未来を実現する力があると確信している。今回の日本成長戦略は、その重要な第一歩である。日本製薬工業協会は、日本を世界から選ばれ続ける創薬の地とし、創薬・先端医療をわが国の持続的な成長を支える中核分野へと発展させるべく、官民共創の旗振り役として実現に尽力する。